

**授業概要**

これまで学んできたことを踏まえ、自身の造形感覚に磨きをかける。  
身近な素材で、様々な表現方法を試み、作る楽しさを味わうと共に、保育・教育者としての造形活動を支援、指導する為の知識や基礎となる技術を習得する。

**授業計画**

第1回	ガイダンス
第2回	共同制作①
第3回	共同制作②
第4回	ミニチュアフード制作①
第5回	ミニチュアフード制作②
第6回	消しゴムはんこ
第7回	豆本制作①
第8回	豆本制作②
第9回	豆本制作③
第10回	豆本制作④
第11回	スクラップブック
第12回	題材開発①テーマをもとにグループごとに素材・題材研究
第13回	題材開発②作品制作
第14回	題材開発③作品制作
第15回	題材開発④プレゼンテーション、授業のまとめ
第16回	作品提出

**到達目標**

第1回から第11回の表現活動においては、様々な活動を通して、自身の造形感覚を高めることが目的である。作る楽しさを見出し、各自が工夫をしながら、表現の幅を広げる。  
第12回～第15回の活動においては、子どもの状況、特質を理解した上での楽しい題材開発を行うことが目的である。その際、準備、片付け等はもちろんのこと、仲間との協力など総合的な力をつけられるようにする。

**履修上の注意**

主として造形活動を行うので、汚れても構わない服装でのぞむこと。  
大学内にないもので、授業中に使用する物品は持参すること。  
材料費として300～500円程度集金する。

**予習復習**

基本的には授業内で制作活動を行えるように集中して活動をする。造形活動に展開できそうな素材研究や資料集めを普段から行っておくことが好ましい。

**評価方法**

作品とグループでの取り組みの状況などから総合的に評価する。

**テキスト**

特になし。必要に応じて資料を配布する。

授業概要

「保育内容の研究（表現・造形）Ⅱでの学習を更に発展させ、幅広く造形活動に取り組む。  
 子どもたちの造形表現活動に誠実に寄り添い、適切なかわりあいができるよう、様々な技法、材料体験を重ねて、表現に関わる展開と応用について学ぶ。  
 また、いろいろな年間行事や季節感、表現の大切な動機となるので、伝承遊びなどと共に課題に取り入れ柔軟な指導のあり方を考えていくよう指導する。

授業計画

第1回	オリエンテーション
第2回	春の造形活動 ①壁面装飾
第3回	// ②こいのぼり
第4回	// ③ //
第5回	材料の比較研究 ①軽量粘土
第6回	// ②線材、針金
第7回	// ③和紙と墨
第8回	// ④自然素材（木、土、石など）
第9回	遊びと工作 ①けん玉、かざぐるま
第10回	// ②さいころパズル
第11回	夏の造形活動 セタかざり
第12回	ハンドパペット制作 ①アイデアスケッチ
第13回	②頭と手
第14回	③服を着せる
第15回	④寸劇を作る
第16回	まとめ、作品返却

到達目標

造形表現についての理解を深め自身も創造的で自由な表現を楽しむことができること。実際に保育の現場での様々な場面での指導、援助に生かせる柔軟性と応用力を身につけることを目標にする。

履修上の注意

必要な画材、教材は用意するので教材費1000円を徴収する。水彩絵の具一式のみ、各自用意すること。

予習復習

基本的に授業時間内での作業とする。事前にアイデアを考えてくる、または遅れた作業を挽回するなどの指示をすることがある。

評価方法

制作に取り組む姿勢、作品の完成度と内容、出席状況、準備、後片付けを含めた総合評価。

テキスト

特になし。必要に応じて資料を配布する。